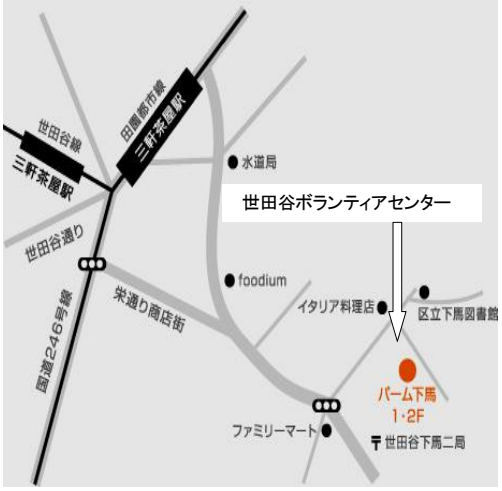
サルー
Salud!★10 号
2012 年２月 11 日

●キューバ友好円卓会議　通信
e-mail：cuba.entaku.0803@gmail.com
FAX　03－3415－9292　　http://cubaentaku.web.fc2.com/
〒157-0073　東京都世田谷区砧 8-15-14-101

キューバ友好フォーラム 2012

キューバのいま
初訪問者の目にどう映ったか

3月10 日(土)
13：30～ 16：00（13：00 開場）
会場　　★予約は不要です
世田谷ボランティアセンター
会議室
154-0002 東京都世田谷区下馬 2-20-14
TEL　03-5712-5101
東急田園都市線・世田谷線「三軒茶屋駅」から徒歩約 10 分
参加費　1000 円（円卓会議会員は 500 円）
主催　キューバ友好円卓会議



世界各地の人々との交流を進めるため、毎年、地球一周の船旅を実施しているＮＧＯピースボートによると、船旅実施後、乗船者に「もう一度訪ねてみたい国は」と問うと、キューバをあげる人が一番多いといいます。どうやら、キューバは私たち日本人を魅了してやまないようです。そのキューバの最新事情は？ とりわけ初めてこの国を訪れた人の目にはどう映ったでしょうか。最近、この国を訪れたお２人にそれぞれの体験を話していただきます。

講演１　政治経済評論家（元朝日新聞論説委員）**早房長治さん**

革命 53 周年のキューバ印象記

キューバに 2011 年暮れから 2012 年にかけて２週間余り滞在しましたが、同国の長い正月休みのせいもあり、まともな取材ができませんでした。このため、「報告」とせず、「印象記」としました

★早房長治（はやぶさ・ながはる）
1938 年北海道生まれ。1961 年東京大学教養学部卒業・朝日新聞社入社。1982 年経済部次長を経て、論説委員。1985 年編集委員。1998 年朝日新聞社退職、地球市民ジャーナリスト工房を設立、株式会社チャンネルジェイの設立に参画。
現在、地球市民ジャーナリスト工房代表、政治経済評論家、日本ネットジャーナリスト協会理事

講演２　会社員　**大友一紀さん**

Good Morning CUBA

高校２年生の時に「ゲバラ日記」を読んで以来、私の中でキューバに対する憧れが芽生え始めた。そして、2011 年の冬、５年来の夢を実現させるため、私はキューバへ旅立った。
23 歳１人旅、社会人１年目のボクが見たキューバの姿とは

★大友一紀(おおとも・かずき)
1988 年生まれ。ビートルズとマカロニウエスタンをこよなく愛す 23 歳。旅行と映像制作が趣味。昨年はキューバの他にベトナム、タイ、ヨーロッパ、トルコを旅行。
現在株式会社ニトリ勤務(写真はタイで撮ったもの)

★入会（年会費 3000 円）、カンパ随時受付中★
※住所・氏名・電話・メールアドレスを明記の上、下記にご入金ください。
郵便振替　００１００－９－４９９９５０　　加入者名　**キューバ友好円卓会議**

報告

キューバ友好フォーラム 2011　８月３日／日本青年館・国際ホール

アレイダ・ゲバラさんに聞く
キューバはエネルギー危機をどう乗り越えたのか

大賀達雄（キューバ連帯の会）

岩垂 弘さん

アンドレスさん

松村真澄さん

2011 年８月３日、日本青年館・国際ホールにて、私たちキューバ友好円卓会議は「キューバはエネルギー危機をどう乗り越えたのかーアレイダ・ゲバラさんに聞く」の講演会を行いました。当日は３度目の来日をしたアレイダさんの講演に先立ち、写真家の和田剛さんの「おれとキューバ」と吉田太郎さんの「キューバの防災と電力」の話がありました。

集会は、松村真澄さん（ピースボート）の司会で、はじめに共同代表の岩垂弘さん、続いて駐日キューバ大使館・参事官のアンドレス・バジェステルさんの挨拶で始まりました。和田剛さん、吉田太郎さんのお話を以下記します。

■和田剛さん(写真家)「おれとキューバ」

和田さんは、2010 年にキューバを始めて訪れ、帰国後の 2011 年に「俺とキューバ」と題した写真展を開かれています。この日も、ご自身の撮った写真を映して、何故キューバに行くことになったのか、キューバとの出合いのいきさつ、バレースクールでの映像など、とても個性のある写真ともに、平和なキューバの光景に触れてご自身が癒される楽しいお話を聞くことができました。

■吉田太郎さん（『「防災大国」キューバに世界が注目するわけ』（築地書館）などキューバに関する著書多数）「キューバの防災と電力」

吉田さんは、「キューバの防災と電力」のテーマで、映像を交えてお話をされました。ハリケーンや台風は、多くの人々の命を奪っています。2005 年のハリケーン・カトリーナは 2000 人近くが亡くなっています。でも最近のキューバでは、ほとんど死傷者は出ていません。それは、日頃から避難訓練を繰り返し、国民に災害情報が正確に伝えられ、緊急時には人々をトラックやバス等に乗せて避難させる態勢を作っています。また、10 軒に 1 軒はコンクリート製の頑丈な家が作られ、1 軒の家の中にもコンクリートでできた部屋を作って、避難所としています。電力の供給については、風力、水力、バイオマス等の再生可能エネルギーでの発電に力を入れ、また分散型発電へのシフトをしています。キューバの方法は 3 つのステップで考えるというものです。それは、①省エネの教育革命、②　エネルギーの分散化、③　再生可能エネルギーの利用、というものです。

■アレイダ・ゲバラさん（小児科医・アレルギー専門医）「キューバはエネルギー危機をどう乗り越えたのか」

続いて、アレイダ・ゲバラさんのお話がありました。通訳は、富山栄子さん（国際交流・平和フォーラム代表）です。

キューバは、厳しいエネルギー危機を乗り越えてきました。その際、文化的な違いや社会制度の違いを考えておく必要があります。キューバは社会主義の国で、国が生産手段を持っています。トラックも国のものなので、そのため、すぐに動員して人々を救うことができますし、革命軍の存在も大きいです。このように被災の行動は国によって大きな違いがあります。住宅は個人の所有物ですが、キューバ人の連帯感は強いものがあります。家が壊れたら、周りの人が駆けつける態勢があります。このように、キューバは危機に直面して連帯という大きなものを回復させました。

また、石油以外の代替エネルギーを探さなければなりませんでした。原発を使おうという意見もありましたが、被害を食い止める技術を確立していないということでやめています。天然ガスや太陽光、風力、水力発電なども開発しています。現代は快適な生活をするのに電気が必要ですが、同時に自然、環境も守らなければなりません。このエネルギーと環境のバランスを維持することが必要になります。

子どもたちのために、私たちが実現していかなければならないのは、①教育、②人々の中に連帯感を作ること、③世界の諸国民との連帯感を強めていくこと、です。

最後にアレイダさん自身、「東北の地震と津波の被災地を訪れた時、彼らとの連帯を強めなければいけない」という気持ちを持ったことが話され、「兄弟よ、私に手を差し伸べてください、自由という大変小さなものだけど、それを探しに行きましょう」という歌を紹介し、講演を締めくくりました。

アレイダ・ゲバラさん

その後は、キューバの経済改革や今回の東日本大震災について、キューバ人の関心について等の質疑が行われ、最後にアレイダさんは、「キューバは日本とともに、正義のある社会、尊厳のある平和を求めて、ともに連帯を強めていきたい」と結ばれました。今回もまた、私たちはアレイダさんにとても勇気を分け与えられたように思います。

講演会参加者は 150 名でした。

フォーラムの当日、会場でおこなったアンケート調査の回答から

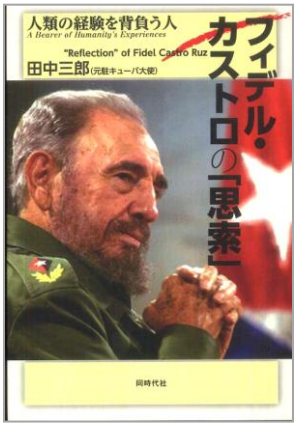
★いずれも大変充実したプログラムでした。／★知らないことが多く、参考になった。／★アレイダさんはとても魅力的でした。／★本日の話で、すでにキューバがエネルギー危機に具体的に取り組んでいること、災害対策が非常に充実していることの話を聞くことができ、日本の指針となることが具体的にわかり、よかった。キューバの生の情報は日本では多くないので、とてもよい機会であった。／★エネルギーについてのお話、とても参考になりました。みんなで実行、実現していくのには、こういう機会を増やし、共有していくことが大切だと思います。／★アレイダさんの話では、厳しい時代にお互いに助け合った話が印象的だった。また、原発を拒否し、自然再生エネルギーを選択する過程が良く理解できた。医療、教育以外にもエネルギー選択もすばらしいことがわかった。／★米国の経済封鎖のために困難な国造りを行っている、その勇気・努力に連帯をしなければ、と思っています。（アレイダさんが）日本の被災地に行かれたことに頭が下がる思いです。／★アレイダさんの話に感動した。米国の経済封鎖に屈することなく、知恵を出し合った。その方向性がますますキューバを、人と人が連帯する国＝強い国にしていると感じた。／★人間の幸せについて考えさせられたフォーラムでした。連帯＝幸せですね。今の日本では、人と人の間が切り離されています。特に原発事故以降、それがあきらかにされました。今こそ日本人もつながるために立ち上がる時だと強くかんがえさせられた一日でした。／★キューバは一度滞在してみたいと思っていた国でした。アレイダさんから「連帯」という強いメッセージをいただきました。キューバから見習うことが日本は多そうですね。／★初めて参加しましたが、来て良かったと思っています。「連帯」という言葉を聞いたのが新鮮でした。／★（キューバが）貧しいながらもよく考えられた社会であることに感心しました。そして連帯感と平和がや行き届いている教育に感心しました。／★アレイダさんのお話は一国の政治、システムの話でありながら、国民の暮らしと感覚に直結していて、なるほどと思わせられました。／★（キューバの）日本との考え方のちがいにおどろいた。日本はキューバに学ぶ事が多いと実感した。／★吉田太郎さんの講演（キューバの防災についての）、とてもよかった。／★吉田さんのハリケーンに関する報告、これからの日本が向かうべき方向もよくわかり、少し希望が湧きました。和田剛さんの写真とトークもおもしろかったです。キューバに行きたくなりました。／★和田さんの写真は、もっとたくさん見たかったです。

書評

カストロの思想と人間性を伝える格好の書

田中三郎著『フィデル・カストロの「思索」』（同時代社）

岩垂　弘（ジャーナリスト）



キューバ革命を率いてきたフィデル・カストロ氏は、現在、85 歳だが、いまなお健在である。

1959 年に革命を成就させたカストロ氏はキューバの最高指導者となり、1976 年に国家評議会議長（国家元首）兼閣僚評議会議長（首相）に就任、長期にわたってトップの座にあった。が、2006 年７月、「激務のため発生した激しい腸の障害の手術、また、

田中三郎さん

不眠不休の極度の疲労とストレスが原因となった障害の手術が必要となったため、責任と義務を果たせなくなった」との声明を発表し、権限を弟のラウル・カストロ氏に委譲した。しかし、病状の回復が遅れたため、2008 年２月、国家評議会議長兼閣僚評議会議長を退任し、そのポストをラウル氏に譲った。2011 年４月には、1965 年から務めていたキューバ共産党第一書記も辞め、そのポストをやはりラウル氏に譲った。

闘病、その後の引退といった身辺の変化にもカストロ氏の強靭な精神力は衰えをみせず、同氏は 2007 年春から、共産党機関紙『グランマ』に「フィデルの思索」と題するコラムを書き続けている。

その「フィデルの思索」の内容とカストロ氏の思いを少しでも伝えたいという狙いから刊行されたのが本書である。「『思索』はキューバではスペイン語、英語の数冊の書となってまとめられているが、日本を始め多くの国では無関心あるいは無理解に放置されている」からだと著者は言う。

著者の田中三郎氏は 1996 年 11 月から３年３カ月にわたって駐キューバ大使を務めた元外交官である。田中氏は７年前の 2005 年に『フィデル・カストロ――世界の無限の悲惨を背負う人』（同時代社）という大著を出版しており、今回の著書はそれに次ぐものだ。

本書によれば、田中氏は駐キューバ大使在任中、数十回にわたってカストロ氏に会う機会があったという。さらに、日本帰国後も、「フィデルの思索」にずっと目を通してきた。田中氏はそうした自らの経験と、カストロ氏の著作を読み続けて得た感想から、カストロ氏の人柄と思想を描き出す。

それによると、素顔のカストロ氏は「非常にデリケートで女性のように優しい」という。それに「非常に謙虚な方」という。「どうして謙虚かというとやはりもう早いときから、50 年前から自分の命を捨てて革命というか国のために闘うという覚悟ができている人ですから、日本でいえば西郷隆盛さんが持っていたような無私の心を持った人、だからこそ、常に謙虚であるということが可能であったんだと思います」と田中氏。

そして、同氏は、カストロ氏がそのような「徳」を身につけたのは、幼少のころから高校までに受けたジェスイット系のカトリック教育と、「キューバの使徒」といわれるホセ・マルティの思想から影響を受けたからではないか、と述べている。

また、田中氏は、カストロ氏の人間性の優れた面として「類い稀なリーダーシップ」「忍耐力」「モラルの高さ」「清貧の思想」などを挙げている。

田中氏はまた、カストロ氏の思想の根本にあるものとして「絶対平和思想」を挙げる。田中氏によれば、それを根底から支えているのは「人間の尊厳と正義という厳然たる普遍的原理」なのだという。

田中氏は続ける。「カストロにとっての尊厳とは、大義あるいは他人のために生命を捨てることができるような人間の尊厳である。世界各地の弱き者、抑圧・差別され無限の悲惨に生きる多くの人々に対するカストロの感受性と憐みは真剣である。また、カストロの正義は、世界各地の巨大な差別、不正（この現実をカストロは『世界全体に拡大するアパルトヘイト』と呼んでいる）に対する激しい怒りを基盤としている。……カストロの政治的、思想的師でもあり、キューバの『使徒』とよばれるホセ・マルティが残した『椰子より高く正義を掲げよ』という美しいことばに生きるのが、カストロとキューバの人々である。カストロは、現実の困難に直面すると、必ず、正義と尊厳という高貴な理念を掲げ、若い人々を中心とする全国民の思想の闘いを展開させる」

田中氏は、カストロ氏が主導したキューバ革命についても「本来『社会主義』革命ではなく、社会正義と人間の尊厳というヒューマニズムを理念とするモラル革命、民族解放革命であり、その根本理念に基いて現実的な『より効率的で完全な社会主義』建設を目標にしている」と位置づけている。

絶対平和思想に立脚するから、核に対しては「絶対否定」だ。核爆弾、核ミサイルに反対するのはもちろんだが、原子力発電にも否定的だ。本書によれば、カストロ氏は 2009 年２月４日付の「思索」で原発の危険性を指摘し、「オバマはエネルギー供給源として原発の建設を早急に進めようとしている。しかし、原発は人命、環境、食糧に対し悲劇的な結果をもたらす恐れのある事故発生の可能性が極めて高いので、多くの人々が反対している。このような大事故の発生を防止することは絶対に不可能である」と、オバマ・米大統領の原発推進に警告を発している。

昨年３月 11 日の東京電力福島第１原子力発電所の事故は、ある意味では、カストロ氏の予測を証明した形となったが、カストロ氏は事故直後の３月 14 日付の「思索」で「日本の原発事故は、原子力発電所の拡散に反対する世界の人々の抵抗を加速化させるであろう」と述べているという。

カストロ氏の思想と人間性について書かれた著作は少なくない。が、元外交官、それも日本の外交官によって書かれたものは極めて稀れ、と言っていいだろう。しかも、これだけ魂を込めて熱烈にカストロ氏の思想と人間

性に傾倒した「カストロ論」もまた極めて稀れだ。読者の中には、著者のカストロ氏への傾倒ぶりに辟易する人もいるかもしれない。

田中氏自身も、本書の中で「私のキューバびいき、あるいはカストロ議長びいきは、次第に日本政府に評判が悪くなりました。評判が悪いのは日本政府だけではなくて、実は最初の間は我が家族、妻と一人の娘が一緒に行ったんですが、家族の間でも大変評判が悪く……」と述べている。が、その後に続く同氏の文章は「キューバびいきと言いますが、一言で言えば私は日本の大使です。私が日本政府に伝えたいと思ったのは、キューバの人々、カストロ議長もそうですが、この人達が持っている、本当に強い愛国心と、モラルの高さ。それを日本の人々に伝えて、解って欲しいという想いだったわけです」というものだ。

日本の外交官にこうした想いを抱かせるなんて、カストロ氏はやはり類い稀な傑出した人物ということであろうか。

275 ページ。1900 円＋税

お知らせ 円卓会議共同代表に 山本伸司・パルシステム連合会理事長

当キューバ友好円卓会議の共同代表（２人制）に山本伸司・パルシステム生活協同組合連合会理事長が就任しました。共同代表の１人を唐笠一雄・同連合会専務理事が務めておりましたが、2011 年６月に専務理事を退任され、併せて円卓会議の共同代表も退かれたため、代わって山本理事長が共同代表に就任しました。山本は首都圏コープ事業連合商品統括本部長、パルシステム生活協同組合連合会専務補佐を経て同連合会理事長に就任しました。

もう１人の共同代表は岩垂弘（ジャーナリスト）です。

お知らせ

キューバ諸国民友好協会

ＩＣＡＰが国際ブリガーダ 2012 の参加者を募集しています

お問い合わせはキューバ大使館へ

ＩＣＡＰ（キューバ諸国民友好協会）が、第７回メーデー国際ブリガーダ 2012 の参加者を募集しています。ＩＣＡＰによれば、ブリガーダとは「ボランティアワークと連帯活動」のことで、その目的はキューバの現実について理解してもらうと同時に、キューバの農業生産を支援してもらうことにあるとのことです。

第７回メーデー国際ブリガーダは４月 22 日から５月６日まで、ハバナ、アルテミサ、ピナール・デル・リオで行われます。費用は 295ＣＵＣ。これには、国内または国際航空運賃は含まれていません。

参加を希望される方は下記までご連絡ください。

【問合せ】キューバ共和国大使館　政務部（田代）　TEL：03-5570-3182　FAX： 03-5570-8521
E-mail: tcultura@ecujapon.jp

国際ブリガーダ 2009

写真提供
2009 年に３人の息子さんとブリガーダに参加した芳賀法子さん

農作業のボランティアワーク、世界各国の参加者との交流、観光など多彩なプログラムが組まれている

報告 2011年度収支報告

2011年度の収支結果は下記のとおりです。

収入	前年度繰越金	978,403	支出	通信費	86,322
				印刷・事務費	15,384
	会費	230,000		会場使用料	99,750
	寄付	40,582		講師等謝礼	120,000
	フォーラム入場料	108,000		販促物等仕入	49,500
	物販収入	47,910		振込手数料	220
	利息	129		雑費	6,770
	計	426,621		計	377,946
	合計	1,405,024		合計	377,946
	※2011年度繰越金	1,027,078			

（※繰越金にはハリケーンカンパ予備費としての預かり金19,000円が含まれます）

情報

東日本大震災・福島原発事故１周年

原発いらない！　3･11福島県民大集会

～安心して暮らせる福島県をとりもどそう～

★県外からの参加歓迎！
★支援をお願いします
詳細はＨＰをご覧ください

日時　３月11日（日）　12：30～開場　13：00 ～ 開始

会場　郡山市　開成山野球場（福島県郡山市開成１丁目５-12）

郡山駅西口より福島交通バス・各方面行きで「郡山市役所」下車後徒歩２分／郡山駅西口からタクシーで約10分
東北自動車道・郡山ICより車で約15分
★駐車場は団体バス専用の駐車場のみ、事前予約を受け付けています。それ以外の駐車場は準備できません。郡山駅周辺等の有料駐車場、または公共交通機関をご利用ください。

開催趣旨　東日本大震災と福島原発事故により、福島県と県民はかつてない困難な状況に置かれています。特に原発事故による県内における放射能の拡散は、すべての産業と県民の暮らしに大きな打撃を与えており、健康に対する懸念も大きくなっています。国や東京電力も対応を進めてきていますが、県民の思いからすれば、取り組みは遅くまた決して十分とは言えません。
安心して暮らせるふるさと・福島を取り戻し、復興を実現するには、事故の収束、除染、そして損害賠償、雇用と生活の保障等が実現されなければなりません。しかし、一方で、時の経過とともに、全国的に関心が薄れ、福島の苦境が忘れられていくことも懸念されます。
大震災と福島原発事故１周年の節目に、県民の願い、要望を全国に発信し、国や東京電力に一層の取り組みの強化を求めるために、県民が総結集する集会を開催します。
大震災と福島原発事故１周年の節目に、県民の願い、要望を全国に発信し、国や東京電力に一層の取り組みの強化を求めるために、県民が総結集する集会を開催します。

13:00～　**オープニング･コンサート**／加藤登紀子 ほか
14:00～　**県民大集会**／開会あいさつ／呼びかけ人あいさつ／大江健三郎さんの連帯あいさつ／県民の訴え／集会宣言採択／閉会の言葉
15:00～　行進説明／15:15～　**行進開始**

呼びかけ人

青木千代美　（福島県女性団体連絡協議会会長）
小渕　真理　（アウシュヴィッツ平和博物館館長）
大石　邦子　（エッセイスト）
片岡　正彦　（弁護士）
熊谷　純一　（福島県生活協同組合連合会 会長）
玄侑　宗久　（作家・福聚寺住職）
清水　修二　（福島大学副学長）呼びかけ人代表
野崎　　哲　（福島県漁業共同組合連合会会長）
山﨑　捷子　（国際女性教育振興会会長）

実行委員会事務局
〒960 - 8106 福島市宮町３－14（労働福祉会館内）
TEL:0800 - 800 - 5702　Fax:0800 - 800 - 5703
http://fukushima-kenmin311.jp/